

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

麦類赤かび病の防除上の留意事項及び薬剤耐性菌検定結果（技術情報第1号）
について（送付）

麦類赤かび病の防除適期が近づいています。以下の点に留意し、防除指導の参考にご活用下さい。

1 防除上の留意事項

(1) 防除時期

可能な限り赤かび病の感染・発症を抑制するため、原則として2回防除とする。

麦種	1回目	2回目
コムギ	開花最盛期	1回目散布の7日後
オオムギ	穂揃期	1回目散布の7日後

<参考>農産園芸研究所（合志市、11/24播種）における予想出穂日【4/5現在】

（*幼穂長からの推定）

シロガネコムギ 4月10日（平年より2日遅く、昨年並）

ミサトゴールド 4月7～8日（平年より5～6日遅く、昨年並）

今後の気象により出穂期は前後するので、必ずほ場を確認する。

(2) 熊本県病虫害防除指針に記載のある登録のある薬剤（H18.4.3現在）

【コムギ】

商品名 （農薬名）	希釈倍数 ・使用量	使用時期 使用回数	成分 総使用回数	使用方法
トップジンM粉剤 （チオファネートメチル粉剤）	4kg/10a	収穫14日前まで 3回以内 （出穂期以降は1回以内）	3回以内 （種子への 処理は1回 以内、出穂 期以降は1 回以内）	散布
トップジンM水和剤 （チオファネートメチル水和剤）	1000～1500倍	収穫14日前まで 3回以内 （出穂期以降は1回以内）		散布
トップジンMゾル剤 （チオファネートメチル水和剤）	4倍 0.8 $\frac{L}{10a}$	収穫21日前まで 3回以内 （出穂期以降は1回以内）		無人 ヘリ

商 品 名 (農薬名)	希釈倍数 ・使用量	使 用 時 期 使 用 回 数	成 分 総使用回数	使用 方法
チルト乳剤 25 (フルコザール乳剤)	1000 ~ 2000 倍 60 ~ 150 ㍓/10a	収穫 3 日前まで 3 回以内	5 回 以 内 (春季以降 は 3 回 以 内)	散布
	8 倍 0.8 ㍓/10a	収穫 7 日前まで 3 回以内		無人 ヘリ
シルバキアフロアブル (テブコザール水和剤)	2000 倍 60 ~ 150 ㍓/10a	収穫 14 日前まで 2 回以内	2 回以内	散布
	16 倍 0.8 ㍓/10a	収穫 14 日前まで 2 回以内		無人 ヘリ
ベルクト水和剤 (イミダクシソールハシ酸塩 水和剤)	1000 ~ 2000 倍 60 ~ 180 ㍓/10a	収穫 21 日前まで 5 回以内 (出穂期以降は 2 回以内)	5 回 以 内 (但し出穂 期以降は 2 回以内)	散布
イオウフロアブル (水和硫黄剤)	400 ~ 800 倍	- 5 回以内	5 回以内	散布
サルファーゾル コロナフロアブル (水和硫黄剤)	400 倍	- 5 回以内		散布
石灰硫黄合剤 (* 大 塚を除く) (石灰硫黄合剤)	50 ~ 60 倍	-	-	散布
大塚石灰硫黄合剤 (石灰硫黄合剤)	100 倍	-		散布

【オオムギ】

商 品 名 (農薬名)	希釈倍数 ・使用量	使 用 時 期 使 用 回 数	成 分 総使用回数	使用 方法
トップジンM 粉剤 (チオファネートメチル粉剤)	4kg/10a	収穫 30 日前まで 3 回以内 (出穂期以降は 1 回以内)	3 回 以 内 (種子への 処理は 1 回 以内、出穂 期以降は 1 回以内)	散布
トップジンM 水和剤 (チオファネートメチル水和剤)	1000 ~ 1500 倍	収穫 30 日前まで 3 回以内 (出穂期以降は 1 回以内)		散布
トップジンM ゴル剤 (チオファネートメチル水和剤)	4 倍 0.8 ㍓/10a	収穫 30 日前まで 3 回以内 (出穂期以降は 1 回以内)		無人 ヘリ

商 品 名 (農薬名)	希釈倍数 ・使用量	使 用 時 期 使 用 回 数	成 分 総使用回数	使用 方法
チルト乳剤 25 (フルコザール乳剤)	1000 ~ 2000 倍 60 ~ 150 ㍓/10a	収穫 21 日前まで 1 回以内	1 回	散布
	8 倍 0.8 ㍓/10a	収穫 21 日前まで 1 回以内		無人 ヘリ
イオウフロアブル (水和硫黄剤)	400 ~ 800 倍	- 5 回以内	5 回以内	散布
サルファーゾル コロナフロアブル (水和硫黄剤)	400 倍	- 5 回以内		散布
石灰硫黄合剤 (*大 塚を除く) (石灰硫黄合剤)	50 ~ 60 倍	-	-	散布
大塚石灰硫黄合剤 (石灰硫黄合剤)	100 倍	-		散布

(3) ポジティブリスト制度施行に伴うドリフト防止対策

【ドリフト及び残留リスク低減のための基本的事項】

- ・風が弱いときに、風向に注意して散布する。
- ・散布の方向や位置に注意する。
- ・ドリフトしにくいノズル(できるだけ粒径の大きいもの)を用い、圧力を極力下げる。
- ・ドリフトしにくい剤型を選ぶ。
- ・境界に障壁用のネットを設置する。
- ・緩衝区域を作り、境界近くでは散布しない。
- ・適正な散布量で散布する。
- ・隣接するほ場の栽培者と作物、収穫時期等について頻繁に情報交換をする。

【無人ヘリコプター使用時の注意事項】

- ・極力無風状態で散布する。やむを得ず微風で散布する場合は風向きに注意し、隣接するほ場が風上になるよう散布する。
- ・隣接する作物の栽培されているほ場に対して平行に散布する。
- ・隣接する作物ほ場に向かって散布飛行しない。
- ・散布飛行速度を抑え、低空で散布する。
- ・散布時、旋回時等の機体の引き起こしを極力抑える。
- ・散布吐出の開始・停止のタイミングに注意する。

2 薬剤耐性菌検定結果

目的 県内の麦類赤かび病の防除薬剤としては、主にチオファネートメチル剤を使用しており、本剤に対する耐性菌の発生状況を把握する。

- 1 . 対象病害 麦類赤かび病
- 2 . 採集作物 コムギ、オオムギ（品種不明）
- 3 . 採集日 2005年5月10 - 11日
- 4 . 検定方法
 - 1) 供試菌 熊本県内 29 ほ場の 417 菌株を用いた（表 1 参照）。

表 1 麦類赤かび病の採集地点名、麦種及び供試菌株数

No	地点名	麦種	菌株数	No	地点名	麦種	菌株数
1	玉名市北牟田 1	コムギ*	1 4	17	甲佐町糸田 1	コムギ*	1 0
2	" 2	"	1 5	18	" 2	"	1 8
3	" 3	"	1 5	19	" 3	"	1 5
4	菊池市赤星 1	"	1 6	20	嘉島町上六嘉 1	"	1 0
5	" 2	"	1 6	21	" 2	"	1 7
6	菊池市七城町砂田 1	"	1 1	22	嘉島町上仲間 1	"	2 7
7	" 2	"	1 5	23	" 2	"	1 5
8	大津町新 1	"	1 5	24	城南町今吉野 1	"	7
9	" 2	"	1 4	25	" 2	"	1 8
10	" 3	"	8	26	" 3	"	1 5
11	御船町小坂 1	"	1 5	27	富合町新 1	"	1 3
12	" 2	"	1 0	28	" 2	"	1 2
13	" 3	"	1 3	29	" 3	"	1 2
14	" 4	オオムギ*	1 8				
15	" 5	"	1 0				
16	" 6	"	2 3				

2) 供試薬剤及び濃度

トップジンM水和剤（チオファネートメチル水和剤 70%） 10ppm

* 1000 倍希釈時の濃度・・・700ppm

3) 菌分離

発病穂より FG 培地、素寒天培地を用い単菌糸分離し、PSA 斜面に保存した。

3) 培養温度及び時間 25 、48 時間

4) 判定基準 検定培地上で菌糸伸長の有無を調査した。

5 . 結果及び考察

県内 29 ほ場から分離された 417 菌株は、全てトップジンM水和剤に対して感受性であった。